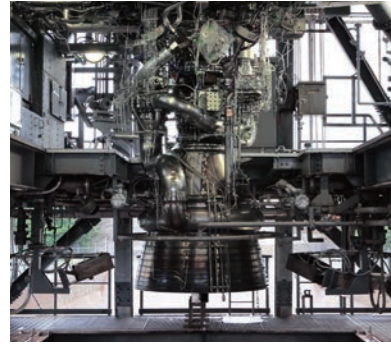


種子島宇宙センター

種子島宇宙センターは鹿児島島の南、種子島の東南端の海岸線に面し、総面積約970万平方メートルの日本最大のロケット発射場です。当センター内には、「大型ロケット発射場」、「衛星組立棟」、「衛星フェアリング組立棟」などの設備があります。これらの設備で、ロケットの組み立て、整備、点検、打ち上げ、人工衛星の最終チェックからロケットへの搭載、打ち上げ後のロケットの追跡まで一連の作業を行っており、日本の宇宙開発において人工衛星打ち上げの中心的な役割を果たしています。



燃焼試験

ロケットエンジンの地上燃焼試験を行い、燃焼作動データなど、さまざまなデータを取得します。



組み立て

ロケットおよび人工衛星の組み立て、整備・点検などを行います。



打ち上げ

移動発射台に載せたロケットを射点に移動させ、燃料や酸化剤の充填を行い、ロケットの打ち上げを行います。



打ち上げ管制

ロケットから送られてくる加速度、圧力、温度、位置などの情報を受信し、打ち上げ管制作業を行います。

宇宙科学技術館

宇宙科学技術館は、宇宙と地球がつながる瞬間をもっと身近に感じられる種子島ならではの“生きた場所”として、とっておきの体験ができる展示施設です。館内には、ロケットの部品に触れるコーナーやタッチゲームなど、触って体験できる展示がたくさんあり、全身で宇宙を感じながらお楽しみいただけます。また、館内のリフトオフィスアターでは、壁面と床面を活用した大画面の映像・音やスモークで、打ち上げを射点間近で見上げているような臨場感を体験できます。



大迫力で打ち上げを体験。リフトオフィスアター



「きぼう」模型内フォトスポット

開館時間 午前9時30分～午後4時30分
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日、8月は休館日なし)、年末年始(12月28日～1月2日)(※ロケットの打ち上げなどで休館する場合があります。)
電話番号 0997-26-9244(宇宙科学技術館直通) 0997-26-9125(音声ガイダンス)
入館料 無料
バスツアー 施設案内バスツアーを運行(開館日と同じ)しております。詳しくは、種子島宇宙センターウェブサイトをご覧ください。(下記QRコードあり)



所在地

アクセス
 西之表港から車で約70分
 種子島空港から車で約50分

ロケット打ち上げ見学場所のご案内
 ロケットの打ち上げ当日は、種子島宇宙センター全域と、射点を中心とした半径3km以内は立ち入り禁止となります。南種子町が管理している指定見学場では、JAXAがカウントダウンの音声を放送しています。見学場の詳細は、南種子町HPをご覧ください。

種子島宇宙センター
 〒891-3793 鹿児島県熊毛郡南種子町大字荃永字麻津
 種子島宇宙センターウェブサイト
<http://fanfun.jaxa.jp/visit/tanegashima/>



広報部
 〒101-8008 東京都千代田区神田駿河台4-6
 御茶ノ水ソラシティ
 JAXAウェブサイト <http://www.jaxa.jp/>



種子島宇宙センター



国立研究開発法人
宇宙航空研究開発機構

新しい価値を 人へ、国へ、この星へ

現在、宇宙開発・宇宙利用を取り巻く環境が大きく変化するなかで、JAXAにも宇宙科学などのフロンティアに加え、安全保障・防災及び産業振興なども含めた今までにない重要な役割が期待されています。私たちは、従来の技術開発と実証を中心とした取り組みを進展させ、企業・大学などとの連携を通じて宇宙航空産業の裾野を広げるとともに、社会的・産業的価値の創出によって安全で豊かな社会の実現に貢献します。ダイナミックに変化する社会の要請に技術で応え、新しい時代を切り拓くことが、私たちの使命です。

宇宙航空研究開発機構(JAXA)の活動

人工衛星による宇宙利用	地球環境観測・災害監視への取り組みや通信、測位技術の発展により豊かな暮らしを実現します。	
ロケットなど輸送システムの開発	日本が培ってきたロケット技術を発展させ、技術基盤の維持とさらなる高度化・低コストを図り宇宙開発の発展に応えます。	
宇宙科学の研究	宇宙の起源と進化、生命誕生の謎に挑みます。宇宙環境での実験と先端的な工学研究を行い、研究成果を通じて人類の未来を拓きます。	
宇宙環境の利用	「きぼう」日本実験棟や宇宙ステーション補給機「こうのとり」を安全かつ着実に運用し、国際社会に貢献します。	
航空技術の研究	「環境」と「安全」を中心とした研究開発を進め、日本の航空産業の成長と安心できる社会の実現に貢献します。	
基礎技術基盤の研究	宇宙航空分野の先端・基盤技術を向上させ、日本の産業競争力の強化に貢献します。	

種子島宇宙センターは人工衛星を打ち上げるための施設です。



A 大型ロケット発射場

宇宙センターの北側を占める大型ロケット発射場では、ロケットの組み立て、整備・点検、燃料充填、打ち上げを行っています。



B 大型ロケット組立棟 (VAB)

工場から搬入されたロケットを組み立て・整備・点検するための設備で、2機のロケットを並行して組み立てることができます。ロケットを移動発射台の上に組み立てていき、最後に衛星フェアリングを取り付けます。
(高さ:81m、幅:64m、奥行:34.5m)



C 大型ロケット発射管制棟 (B/H)

射点から500mの地下12mに発射管制室があります。ロケット打ち上げまでの一連の作業に対する指揮・監督などを遠隔操作で行うとともに、総合指令棟に必要な情報を伝達します。



D 液体エンジン試験場

ロケットの心臓部とも言える第1段エンジンの地上燃焼試験場です。現在は、H3ロケットの第1段エンジン「LE-9」の燃焼試験を行っています。



E 第1射点 (H-IIA) **F** 第2射点 (H3)

ロケットは打ち上げ直前にVABから射点へ移動します。H-IIAロケットは第1射点から、H3ロケットは第2射点から打ち上げます。



大型ロケット組立棟から見た大型ロケット発射場



● 一般見学スポット

● 施設案内バスツアー見学スポット
施設案内バスツアーに参加すると見学できます。ご予約・問い合わせは、宇宙科学技術館まで。



G H I J

衛星組立棟・衛星フェアリング組立棟

これらの設備では、人工衛星の組み立てや試験、衛星を保護するカバーであるフェアリングを取り付ける作業を行っています。



K ロケットガレージ

H-IIロケット7号機の実機をはじめとしたロケットの部品を、実物ならではの圧倒的なスケール感、迫力などが感じられるよう展示しています。



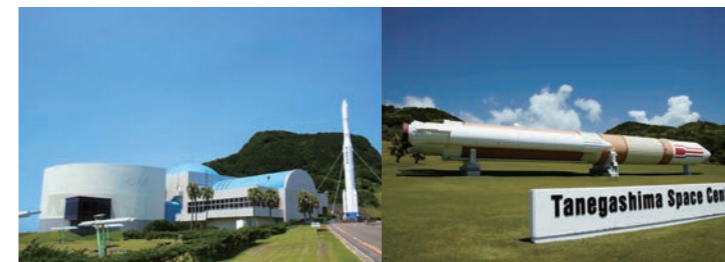
N 竹崎発射管制棟

H3用の発射管制棟として射点から約3km離れた所に新設されました。全体指揮を司る総合指令棟と隣接させて連携を取りやすくし、人員はH-IIAロケットに比べ1/3~1/4に削減されます。



O 総合指令棟

ロケット打ち上げの際には、ここに、打ち上げに関わる各作業の責任者が入ります。全ての情報はここに集められ、発射および追尾、安全管理など、打ち上げに関するあらゆる決定を行っています。



Q 宇宙科学技術館

宇宙科学技術館では、日本の宇宙開発を幅広く知っていただくために、ロケットを中心に、人工衛星、国際宇宙ステーション、月・惑星探査などについても、展示・紹介しています。また、「N-Iロケット」「H-IIロケット」の実物大模型を屋外に展示しています。



R 竹崎展望台

ロケット打ち上げ時には、報道機関の取材場所となります。取材用スタンドのほか建物内には、記者会見室、プレスセンターなどがあります。(※屋上のみ見学可)



T 固体ロケット試験場

強い推進力を生み出す固体ロケットブースターの地上燃焼試験を行う設備です。現在開発中のH3ロケットの固体ロケットブースター (SRB-3) の燃焼試験もここで行われました。

L 中型ロケット発射場跡

M ロケットの丘展望所

P カーモリの峯展望台

S 小型ロケット発射場跡



カフェテリア
宙飯屋 (ちゅうはんや)